

星林高等学校

実施日時	平成30年 11月 6日(火) 3~4限
参加者	生徒865名、教職員72名 計937名 PTA・地域自治会の方
実施内容	防災講演会 10:50~11:50(3限:60分)、防災実技講習(1年生のみ) 12:00~12:50(4限:50分)

事前の取組

アルファ米試食については事前に食物アレルギーの有無を生徒に確認し、事故の未然防止に務めた。

主なプログラム

①普通救命講習(星武館)

人形を使った人工呼吸、胸骨圧迫の実技講習及びAEDの使用の仕方を学ぶ

②アルファ米炊き出し・配膳訓練(生徒ホール)

「わかめごはん」「田舎ごはん」「ドライカレー」「チキンライス」4種類、約300食分の炊き出しと配膳の訓練

③パーティション組立・撤収訓練・非常用スリッパ作成(体育館)

- ・ 段ボールとクリップを使いパーティション組立と撤収の訓練
- ・ 新聞紙を使用しスリッパの作成

参加者感想文

今回、心肺蘇生法の実習に参加しました。今までは自分に関わりがないことだと思っていましたが、身近で人が心肺停止になり実際に使っているのを見て、他人ごとではないと思い体験してみることにしました。実習では、大きな声を出したり、的確な判断で周りの人を動かしたり、落ち着いてAEDを使ったり、胸骨圧迫する時は5cm押すなど難しいことばかりでしたが、講師の方の説明が分かりやすく、自分でも出来ました。もし、公の場でこのような場面に遭遇したら、その際には今日

学んだ事を活かし、人の命を救うという大事な役割を果たしていきたいと思います。また、今回得た知識を友達や家族にも伝え、一人でも多くの協力者を増やして行きたいと思いました。

今回、防災訓練で「パーティション組み立て・撤収訓練」を体験しました。これは災害時に避難所での生活でプライバシーを守るために、分厚い段ボールで仕切りを作って、生活環境を作るというものでした。私は最初、段ボールだけで生活環境はうまく出来ないと思っていたのですが、中に入ってみると意外と周囲の音が聞こえず、スペースも狭くないので災害時には個人のプライバシーが最低限守られ、ストレスが軽減されそうだと思います。また、作る工程もそれほど難しくなく、段ボールどうしをマジックテープでくっつけるだけなので短時間で終了しました。今回経験したことを災害時に役立てて行きたいと思いました。

今回の防災訓練で「 α 化米炊き出し・配膳訓練」に参加しました。作り方は、水さえあれば簡単で、試食してみると普段食べているお米と比べ、多少味は劣るものの、それなりに美味しく、わかめやカレーなど好きな味を選べた事で、非常食の幅の広さを知りました。きっと災害時には、すごく美味しく感じると思いました。そして、 α 化米はいつでもどこでも炊ける、とても便利な優れもので、日本人向けの非常食だとわかりました。入れる水の量を増やせば、おかゆとして食べられるので、お年寄りの人でも、美味しく食べられるのではないかと思います。万が一災害が起こり、非常食が必要となった場合、この体験を生かすこ

とが出来れば、私達高校生も地域のために率先して動くことができると思いました。貴重な体験をさせていただきました。

成果と課題

想定外の津波等に対して校外高台（秋葉山）への避難訓練を昨年度より1年生を対象に4月に実施。入学後、命を守るという観点から早い段階で複数の避難経路・避難場所の確認を行い、防災意識を高めることを目的とした。避難経路については、7クラスを3つのグループに分け、それぞれ別ルートで避難し、最終全員同じ場所に集合・整列・点呼・総評して下山。生徒は真剣に取り組み、市内外の生徒も早々に避難場所等が理解できた。ただ、近隣には、小学校・中学校・高校があり、住民の方々も多く災害が起こった場合かなりの混雑が予想されるため色々な形で地域の方々と連携をとる必要がある。また、道路の破損、電信柱、家屋の倒壊など定めておいた避難経路が使えないことも考えられる。秋葉山・高津子山、両方を視野に入れ避難訓練を行う必要がある。今回の防災スクールでは、情報伝達訓練、シェイクアウト訓練等を行い避難場所は本校体育館とした。和歌山市の地域防災課防災班 三宅・森氏両名を招き「和歌山市の災害と防災対策」について講演いただき、地震のメカニズム・地震に備えての家具等の防止策・地震が起きたときの対応・非常用持ち出し品・備蓄品などの動画を見ながら分かりやすく説明してくれた。また、本校は今年度から、紀ノ川が氾濫すると校内グラウンドの一部が浸水区域に指定され、洪水に関する避難確保計画を作成、和歌山市に提出。このことから、近年の、台風、大雨、土砂災害などの話も加えて、事前の備え、情報収集の重要性等、災害前、災害後に何が必要か、どのような行動をすべきかを生徒は理解し身近に感じることができた。

防災実技講習では一次救命処置（心肺蘇生法とAED）では、危機管理に備えて各自救援者としての活動ができるように、和歌山市消防局から講師先生を3名招き、人形を使った人工呼吸・胸骨圧迫の実技講習に加え、AEDの使用の仕方を学

習した。救急車が到着するまでの間、バイスタンダーとして出来ることを知り、いざという時に役立てたい。アルファ米炊き出し・配膳訓練では生徒ホールと調理室でお湯を使ってスムーズにおこなうことができたが、実際に災害に遭った時、大量の水・火器の確保についても考えておく必要がある。パーティション組立・撤収訓練及び新聞紙によるスリッパ作成では1グループ当たり10～15人で実施した。組み立て方は、最も簡単な正方形を指示した結果、生徒たちも戸惑うこともなく、スムーズに組み立てることができた。実際の災害時の混乱の中での活動を想定し、いかに緊張感を持って訓練ができるかということが今後の課題であるとともに、全ての訓練はホームルーム教室からの移動が多いため今後は、体育館・グラウンド・特別教室の授業中の訓練や、休み時間などを利用し急な災害が起こった場合、教師がその場面にいない時、生徒1人1人が的確な判断が出来るような訓練が必要である。



救命講習(心肺蘇生)



パーティション組立
撤収訓練



アルファ米炊き出し
配膳訓練